

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名：働き方改革実践部門

エントリー名：埼玉県深谷市立豊里小学校 棚村かおり 平成 30 年度第 1 回副校長・教頭等研修

活動名：人材活用の工夫～「多忙感」を「充実感」へ改善する仕掛け～

解決すべき課題：単学級小規模の学校においては教職員一人の分掌も多く、重要な役割を担うため、多忙感払拭への工夫が課題である。そのため、教職員が自らのよりよい授業づくりをしたいと思う工夫が必要であり、それが、多忙感を超える充実感へ繋がると考える。

目標・方針：地域の教育力を活用し、限られた教師力を最大限発揮させるための改善を図る。成果を教職員全員で共有し、チーム学校として一人一人が意識するよう次の視点で工夫を図る。(1) 学校評価をよりよく活用する。(PDCA サイクルは機能しているか) (2) 成果の見える環境の整備を行う。(活動の可視化) (3) 地域との連携体制を整備する。(地域の教育力を学校教育に繋ぐ)

活動内容：(1) 振り返り等を重視し、活動を他に生かす工夫。(学校評価を生かす<グラフ①②>・情報を HP で公開する・毎日の活動を写真で記録～日付で管理) (2) 意欲向上への環境の整備。(見やすさ・わかりやすさ<写真①②>・使いやすさ・教師の意識向上を図る工夫<写真③>) (3) 学校運営協議会や学校応援団など地域の教育力をよりよく活用する連携体制の整備。(支援のための組織づくり<図①・写真④>と年間指導計画等への支援の位置付け<図②>)

活動の成果：・写真を行事名として及び日付とともに残すことで、計画的に次の計画や他の活動に生かすことができるようになった。・提案段階で前回の反省を示すことで、全体でよりよい計画に練り上げることができた。・地域の人材活用を自ら実施する職員が増えた。(受け身でなく、教師自ら地域との連携をはかる)

アピールポイント(アイディアや工夫)：・教職員だけでなく、地域の意見を入れながら活動を見直す。・あらゆる場面で可視化を図る。・行事と教科の連携を図り、多くの職員で関わる。

【資料】<グラフ①> ～保護者価抜粋～

<グラフ②>

7 学校は、学校だよりや学年便り、ホームページなどで教育活動を分かりやすく伝えて

7 月 73.7 24.0 2.2

1 2 月 71.9 27.5 0.6

8 学校は、教育活動を保護者や地域に積極的に公開している

7 月 74.4 23.3 0.0

1 2 月 77.0 22.5 0.0

第 1 回(7 月)と比べ、第 2 回目(12 月)の調査で、肯定的評価が増えている(4、3 合計)

<写真①>

<写真②>

<写真③>

昇降口に掲示～可視化で意欲向上を図る

一人一人の職員個人配布用出退勤データに、コメントをつけ、意欲向上を図る。

<図①>

<図②>

学校支援ボランティアの各支援部、各学年に代表を設置し、教職員はその代表に連絡し、直接支援を求めることができる。

学校行事・授業と学校応援団との関わりを年間行事に位置付け、授業の充実につなげる。